

自己鍛錬の場としての大学

学長 安酸敏眞

新入生の皆さん、北海学園大学へのご入学おめでとうございます。大学への入学は、おそらく人生のなかで最も記念すべき出来事の一つであろうと思います。いまは高校卒業生の二人に一人以上が大学に進学する時代です。それでも入学試験を突破して本学の門をくぐるのは、容易いことではありません。たゆまぬ努力があってこそです。しかし入学はあくまでも最初の一步です。これから本当の意味での大学での自己鍛錬が始まるのです。

昨今、大学の「ユニバーサル化」ということが言われます。これはアメリカの社会学者マーチン・トロウが広めた用語・学説です。彼によれば、大学教育にはエリート段階、マス段階、ユニバーサル段階とあって、その段階が推移するにつれて異なった課題が生ずるというのです。エリート段階とは、ごく一握りの選ばれた人(エリート)だけが大学進学する段階。マス段階とは高校卒業生の15%以上が大学進学する、高等教育の大衆化が進んでいる段階。ユニバーサル段階とは高校卒業生の50%以上が大学進学する段階、つまり大衆化を通り越して高等教育の一般化が定着した段階をいいます。

わが国の18歳人口比で見た大学進学率は、1961年には10.3%でしたので、わが国の大学はまだエリート段階にありました。しかし先の東京オリンピックがあった年の翌年の1965年には、17%となってはじめてマス段階に移行しました。わたしが大学進学した1970年には、23.6%にまで上昇していました。かなり大衆化してきてはいましたが、それでも大学進学はまだ「狭き門」だったと思います。ところが2005年にはついに52%となって、ユニバーサル段階に突入し、それ以後は似たような比率で推移しています。

ユニバーサル化は決して悪いことではありません。社会的エリートしか大学に行けなかった時代に比べれば、誰でもが大学に行けるようになったことは喜ばしいことです。しかしその反面、新しい課題も突きつけています。学生の入学動機や学力に大きな変化が生じ、高校を卒業しても有望な就職先が見つからないから、あるいは自分の将来展望が描けないから、「とりあえず」大学に進む若者が増えているというのです。この現象は「セカンド・チョイスとしての大学」とか「労働の代替物としての学習」として揶揄されることもあります。いずれにせよ、全国的に大学の変質と質的低下が避けがたい現実となっています。戦前には27校しか存在しなかった私立大学が、1949年には92校になり、現在では604校にも増えているのですから、無理からぬ話です。しかし皆さんが入学された北海学園大学は、由緒ある伝統を背景にした、明確なミッション(使命)をもった大学です。したがって、たしかに大学の4年間はいわゆるモラトリアム(社会的義務の遂行が猶予される期間)ですが、この期間をいい加減に過ごそうとする人がいましたら、入ってくる大学を間違えていますので、すぐにでも思い直した方が良いでしょう。

北海学園大学は、戦後の復興が緒に就きだした1950年に産声を上げた北海短期

大学を前身として、その2年後の1952年に創立されました。ですから短期大学の誕生から数えると、今年で創基69年になります。しかしその母胎である学校法人北海学園の歴史を繙けば、その礎石は今を遡ること134年前の1885（明治18）年に据えられました。北海道開拓のための人材育成を目的に、札幌農学校第3期生の大津和多理（1857-1917）によって創設された「北海英語学校」がその原点です。その後、「学園の父」といわれる浅羽靖（1854-1914）ならびに戸津高知（1872-1959）両氏の奮闘努力によって、学園は徐々にその規模を拡大し継続発展してきて、その土台の上に、1950年に拓殖学の第一人者である上原轍三郎（1883-1972）を初代の学長に迎えて、まず北海短期大学が、そしてその2年後の1952年に、北海学園大学が誕生したのです。

このように、わが北海学園大学は、北海道開拓以来の使命を引き継いで、北海道開発を牽引してきた大学です。現在、本大学には経済学部、経営学部、法学部、人文学部、工学部の5つの学部があり、その上には5つの大学院研究科と、さらに専門職法科大学院法務研究科があります。3月末現在で、在学生約8400名、卒業生約8万9000名を数えますので、名実ともに北海道最大の私立総合大学です。

本学の建学の精神は「開拓者精神」（Pioneer Spirit）です。北海道開拓に淵源するこの精神の一番の特徴とされる「独立独行」は、しばしば「官に依拠せず自ら歩む自立・自律の在野精神」と言い換えられます。この「二つのじりつ」は、現代でも通用する普遍的な行動原理です。これはまた、「チャレンジ精神」にも通じます。さらに、未知の事柄に勇猛果敢に挑戦するこの精神こそは、まさにいまの時代に求められているものでもあります。

「パラダイムロスト」（Paradigm Lost）という言葉が現実感をもつ現代です。パラダイムとは、われわれの思考や行動が当たり前に基づいている共通の枠組み、あるいはある時代の支配的な準拠枠のことです。21世紀の現代は、既成の概念の枠組みや常識が大きく崩れ、それに依拠するだけではやっていけない時代になっています。ですから、既存の仕組みを鵜呑みにせず、また既成概念にとらわれずに、責任を負う自己として、主体的に未来を切り拓いていかなければなりません。

新入生の皆さん！これから始まる4年間の学生生活を漫然と過ごすのではなく、自分なりの明確な目標と課題をもって、挑戦的かつ躍動的に過ごしてください。本学は「地域と世界をつなぐ有為な人材」の育成をめざしています。これまで半世紀以上にわたって、本学は地域に根差した大学として、北海道の発展に資する人材育成を中心的テーマに掲げてきました。しかしグローバル化が進展した今日、北海道や日本にだけ主眼を置いたものの考え方は通用しなくなっています。ローカルな場に身を置きつつもグローバルな思考をもって活躍できる人、あるいはまさに国際舞台でバリバリ働ける人、そういう有為な人材になれるように、日々自己鍛錬にお励みください。大学の4年間はまさに自己鍛錬の期間です。われわれ教職員も皆さんがその目標を達成できるよう、全面的に協力支援する所存です。充実した大学生活となるよう祈念して、学長の式辞といたします。

2019年4月2日